

合同シンポジウム

第二部 第26回 関西地域GIS自治体意見交流会

一般社団法人 地理情報システム学会関西支部

交野市の統合型GIS導入の経緯

2025年10月9日

交野市 都市まちづくり部 都市まちづくり課



本日の内容

1. 交野市について
2. 交野市のGIS変遷
3. 交野市のGISに関する当初の課題
4. 課題に対しての取り組み
5. 今後のGISの活用について



1. 交野市について

◎交野市の概要

- ・位置：大阪府の北東部
- ・面積：25.6km²
- ・総人口：74,810人
(2025年4月現在)



本市は大阪府の北東部、生駒山系の北端に位置し、大阪市、京都市、奈良市までいずれも概ね20kmの距離にあります。東西約5.4km、南北約6.8kmの方形をしており、その面積は約25.55km²です。市域の約半分が山地であり、中央を天野川が流れる自然豊かなまちです。市内には鉄道および高速道路が整備されており、大阪市や京都市などの大都市圏への優れたアクセス環境が整っています。1971年に市制を施行し、2021年には市制施行50周年を迎えました。



1. 交野市について



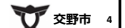
ほした園地と「星のブランコ」
「大阪府民の森」として整備され、園地内にある吊橋「星のブランコ」（全長280m、最大地上高50m）がランドマークで、年間約100万人の観光客が来訪



七夕ゆかりの織姫の里
交野市は星にちなんだ地名や伝説が多く残る
「星のまち☆かたの」としても親しまれている。

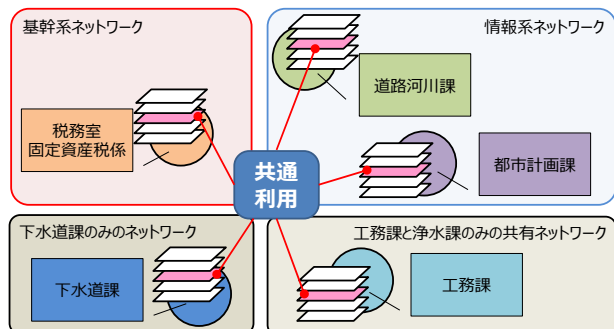


神宮寺ぶどう
交野山系の湧き水、水はけの良い土と高度な栽培技術から生み出される高品質なぶどう（果粒が大きく糖度も高い）



2. 交野市のGIS変遷

2019年度（令和元年度）以前 交野市のGIS整備状況



基礎図面である地形図（都市計画基本図）等を共通運用しているが、セットアップ、データ更新等の費用が重複して発生している。



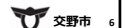
2. 交野市のGIS変遷

- ・道路河川課：道路台帳システム
- ・都市計画課：都市計画情報システム

上記2システムの賃貸借期間の満了及びWindows7のMicrosoftによるサポート期間終了に伴い、道路河川課と都市計画課の2課で個別にシステムを調達するのではなく、2課で共通して利用できるGIS導入を予算化

- | | |
|---------------|-------------------------------|
| 2019年度（令和元年度） | 庁内情報共有GISの統合基盤環境構築（以下：統合型GIS） |
| 2020年度（令和2年度） | 公開型GISシステム構築 |
| 2024年度（令和6年度） | 統合型GIS・公開型GIS『交野くらしのマップ』再構築 |
| 2025年度（令和7年度） | 公開型GIS『交野くらしのマップ』本格運用開始 |

新型コロナウイルス感染症対策として都市計画図等の地図情報を市のホームページで公開することで、窓口における感染防止対策や住民等の利便性向上を図る。



3. 交野市のGISに関する課題

■2024年度の再構築時の事業実施によって解決を図った課題

- ① 災害対応にかかる情報提供ができておらず、『いつでも』『どこでも』『だれでも』確認できる、災害情報コンテンツの配信ができていない。
- ② 公開している背景図（都市計画基本図）の作成年次が古いため、新たな追加コンテンツを作成する際に地形との整合性が取れず、住民等に誤解や場所の特定が困難となる問題が生じていることから、住民や事業者からの修正要望が寄せられていた。
- ③ 公開している情報が乏しく、来庁機会削減につながるだけの情報提供ができていないため、公開コンテンツの増加要望が寄せられていた。
- ④ 追加するコンテンツや既存で管理されているデータは、情報が更新されることが多いため、職員でもデータを簡単に更新できる仕組みが必要となっていた。



交野市

4. 課題に対しての取り組み

■課題①

災害対応にかかる情報提供ができておらず、『いつでも』『どこでも』『だれでも』確認できる、災害情報コンテンツの配信ができていない。

■取り組み①

新たに公共施設、公園、避難所、病院、AED設置場所等の災害時に必要となる災害情報等の電子化を行い、集約して公開型GISで公開。



参考:交野市公開型GIS (くらのマップ)
<https://webgis.alandis.jp/katano27/portal/index.html>



交野市

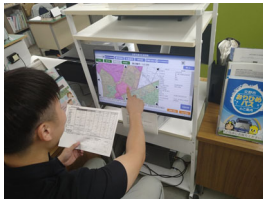
4. 課題に対しての取り組み

■課題②

公開している背景図（都市計画基本図）の作成年次が古いため、新たな追加コンテンツを作成する際に地形との整合性が取れず、住民等に誤解や場所の特定が困難となる問題が生じていることから、住民や事業者からの修正要望が寄せられていた。

■取り組み②

2024年度に都市計画基本図修正業務として、平成12年（一部、平成22年）から更新できていなかった交野市全域の基本図を作成し、基盤地図データ整備を含めた庁内各課で利用可能なデジタル地図を整備し、庁内の窓口システムも新調し、住民や事業者からの満足度向上を図った。



交野市

4. 課題に対しての取り組み

■課題③

公開している情報が乏しく、来庁機会削減につながるだけの情報提供ができていないため、公開コンテンツの増加要望が寄せられていた。

■取り組み③

令和2年度の公開型GIS当初は、地形図・地番図・都市計画総括図・路線網図のみの公開だったが、取り組み①の内容に加え、下水道台帳、防災行政無線などを追加。



参考:交野市公開型GIS (くらのマップ)
<https://webgis.alandis.jp/katano27/portal/index.html>



交野市

4. 課題に対しての取り組み

■課題④

追加するコンテンツや既存で管理されているデータは、情報が更新されることが多いため、職員でもデータを簡単に更新できる仕組みが必要となっていた。

■取り組み④

電子化した災害情報や各種情報等を維持管理するための公開型GISと連動する地図データ連携プラットフォーム（庁内型GIS）を構築し、その他行政情報についても順次コンテンツ拡張できる環境を整備。



交野市

5. 今後のGISの活用について

目標

～交野市DX推進計画「豊かで安心な暮らしの実現に向けたデジタル技術の活用」に向けて～

①市民に向けた公共交通ツールの充実

②統合型GISを活用した市政の充実



交野市

5. 今後のGISの活用について

目標

～交野市DX推進計画「豊かで安心な暮らしの実現に向けたデジタル技術の活用」に向けて～

①市民に向けた公共交通ツールの充実

2

令和7年3月から市として自家用有償旅客運送にてコミュニティバスの運行を開始。
バスの運行情報（現在位置、遅延情報等）について住民から問い合わせが寄せられる機会あり。

公開型GISポータルサイトでバスのリアルタイム位置情報を可視化できるシステム導入での活用がでないか。



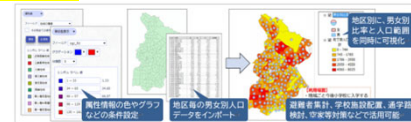
5. 今後のGISの活用について

目標

～交野市DX推進計画「豊かで安心な暮らしの実現に向けたデジタル技術の活用」に向けて～

①市民に向けた公共交通ツールの充実

②統合型GISを活用した市政の充実



統合型GISは全庁的な情報を蓄積し、多様なデータを重ね合わせて人口や建物の動きを可視化できるため、都市計画やまちづくりに活用できる。

また、避難者集計や学校施設配置、空家対策などの課題にも効果的に対応でき、より実効性の高い都市政策の推進が可能。

さらに、最新の地図情報をもとに、人口分布や土地利用状況、防災拠点の位置、交通インフラの配置など複数の視点から総合的に分析や資料作成が可能となり、行政運営の効率化にも貢献。

